

腹部超音波検査の実施状況
～人間ドックと巡回検診の結果について～

公益財団法人福島県保健衛生協会

○吉川侑希、宮本恵美子、高橋幸子、坂本弘明

【はじめに】超音波検査は非侵襲的でリアルタイムに情報が得られることから、健診に広く活用されている。当協会は、人間ドックや職域巡回健診等で上腹部領域の腹部超音波検査を実施している。

今回、我々は腹部超音波検査の現状を把握する目的で、4年間の集計を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象：2015年4月から2019年3月までの4年間に、人間ドックおよび職域巡回健診にて腹部超音波検査を受診した者のうち、治療中の者を除いたのべ27,846人。

方法

- 1) 検査方法：日本消化器がん検診学会の推奨する走査法を用いた。
- 2) 使用装置：GE ヘルスケア LogiqS7、Logiq7、LogiqS6、LogiqP5、TOSHIBA、Aplio300
- 3) 対象臓器：肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓と、腹部大動脈等の周辺臓器。
- 4) 集計：有所見者数、臓器別有所見者数、要精密検査所見の内訳、精密検査結果。

【結果】

1.性別・年齢階級別受診者数

4年間の受診者数はのべ27,846人で、男性18,911人(67.9%)、女性8,935人(32.1%)であった。年齢階級別受診者は、40歳代から50歳代が多かった。

2.有所見者数と臓器別有所見数

有所見者数は男性が14,494人(79.0%)、女性は5,701人(63.8%)であった。男女ともに加齢に伴い有所見率が上昇した。男女別では男性の有所見率が高かった。

3.要精密検査数と精密検査結果

要精密検査者数は639件(2.3%)であった。精密検査結果の返信が得られたのは423件で、返信率は66.2%であった。そのうちがんまたは腫瘍と記載があったものは19件であり、最も多い臓器は腎臓であった。がんまたは腫瘍の陽性反応適中度は3.0%であった。

【考察】当施設の有所見率は74.1%であり、他健診機関の報告72～82%とほぼ同等であることから、対象母集団の有所見率は70～80%程度と思われた。有所見率を男女別で比較すると、最も差が大きいのは脂肪肝で男性が女性の2.2倍認め、男性は内臓脂肪が多いことを反映していると考えた。要精検率は人間ドック学会で1.0%～10%の範囲が望ましいとされている。当施設の要精検率は2.3%であることから、適正な範囲であった。繰り返し要精

密検査と報告されていても精密検査結果の返信がない受診者が 18 人 (6.7%) いたため、受診の有無の調査と受診勧奨を徹底する必要がある。

【まとめ】腹部超音波検査について 4 年間の集計を行った。検診を行う上で結果をフィードバックすることは大変重要であり、精度の向上に欠かせないものである。今後も定期的に結果の集計を行い、精密検査結果をふまえた症例の検討を行っていくことが大切であると考えられる。また、腹部超音波検査はがんの早期発見に有用であるといわれ、実際、経過観察が必要な疾患も多く発見されていることから、精密検査受診の調査の徹底、並びに精密検査未受診者への受診勧奨をすすめていくことが肝要である。